

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

~TANKYU~

谷地南部小学校

校内研究だより

2024. 1. 30

No.46 文責 荒木秀

# 個人研究発表会

先週は、個人研究発表会お疲れさまでした。どの先生の発表も、大変興味深く、楽しく拝聴することができました。これまでのご準備、本当にありがとうございました。

発表を聞いていて面白かったのは、先生方それぞれテーマは違うはずなのに、つながる瞬間があるということでした。「自由進度」「個別最適」「見守る」等々、「あれ、自分の発表につながる。」そんな瞬間を、先生方も感じられたのではないのでしょうか？面白いですねえ。

でも、よくよく考えれば当たり前のことかもしれません。なぜならば、私たちの研究は「主体的、対話的で深い学びの実現を目指して」という研究主題のもと行われているからです。目指すべきゴールが一緒なのだから、それぞれのコースは違っても、ゴールに向かえば向かうほど、つながりが生まれてくるはずです。全員の発表を、全員で聞くことができてやっぱりよかったと思いました。

今回の発表会は、子どもたちの学びになぞらえば「対話的」や「協働的」な学びの場面でした。1人では得られない学びがあったと思います。自分の知識に、広がりや深まりが生まれましたよね。私は、これこそが「深い学び」だと思っています。発表会の前と後では、きっと違う自分になっていたはずです。「シン・自分」になりましたよね。

ぜひ、子どもたちの「対話的」「協働的」な学びの場面も、こんな風に「深い学び」につながるものにしていきたいものです。そのためには、私たち教師は何をすればいいのでしょうか？「ちゃんと話を聞きなさい!!」と注意を促しますか？それも大事かもしれませんが、それだけではダメですよ。

私は、つながりを子どもたちが見出せることが大事なのかなと思っています。「自分事」になれるということです。そのためには、大きな課題やめあて、テーマを全員が共有できるように、教師は声をかけていく必要があるのかなと思います。「何のために話し合うんだっけ？」「今日の課題は？」

夏休み明けの自由研究発表会。子どもたちが友だちの発表に興味がなく、思ったほど盛り上がりなかったなんて経験ありませんか？もしかしたら、つながりが見出せなかった（自分事にならなかった）からかもしれませんね。「今年度の自由研究は『環境』というテーマで。」なんて、課題の出し方をしたら、もう少し盛り上がりだしたかもしれません。知らんけど。（←使い方、合ってます？）